



Title	陸機詩研究：雲を詠じた詩を中心として(二〇一二年度卒業論文要旨集)
Author(s)	小野寺，由季
Citation	札幌国語研究，18：81-81
Issue Date	2013
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7609
Rights	

陸機詩研究

——雲を詠じた詩を中心として——

漢文学研究室 九四二五 小野寺由季

本研究では、陸機詩に見える雲の語に注目し、その詠じ方の特徴を考察した。

陸機詩には、「慶雲」「風雲」「曾雲」「玄雲」「雲端」「油雲」「帰雲」「崇雲」「陰雲」「鮮雲」「朝雲」「傾雲」「翠雲」「浮雲」「雲煙」の、実に十五種類の雲を用いた熟語が見られる。また一例のみ見られる語が十語あり、半数以上を占めている。これらことから、陸機が重複を避けて用いていると考えられる。

本研究では、陸機詩に見える雲を用いた熟語の中から「慶雲」「雲端」「油雲」「鮮雲」「傾雲」の語を取り上げ、その詠じ方を考察した。

陸機詩に見える「慶雲」、「雲端」の語は、陸機以前の詩人と異なる表現に用いられていた。陸機はこれまで詠じられてきたイメージを膨らませ、新たな表現に用いたのである。

「油雲」、「鮮雲」、「傾雲」の語は、陸機以前に用例が見られず、陸機はそれまで詠じられていなかった雲の熟語を詩に用いたことになる。これは、これまでに詠じられてきた雲の表現にとらわれずに、先人たちの詩とは異なる表現をしようという陸機の工夫であると考えられる。

雲の描写や雲を用いた表現に関して、陸機は他の詩人よりも細やかに詠じていると言えるのではないだろうか。